

科目名	マクロ経済学 I	科目分類	■ 専門科目群 (第 1 グループ) □ 総合科目群 (第 2 グループ)
			経済学科 □ 必修 ■ 選択 学科 □ 必修 □ 選択
英文表記	Macroeconomics I	開講年次	■ 1 年 □ 2 年 □ 3 年 □ 4 年
ふりがな	はたけやま あきのぶ	開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中
担当者名	畠山 光史	修得単位	2 単位
授業のテーマ	マクロ経済学への入門授業です。		
到達目標	学生は、マクロ経済学の基礎概念および基本的な分析手法を習得できる。		
授業概要	本授業では、マクロ経済学の考え方のうち重要概念である GDP、総需要、有効需要、乗数理論、貨幣、流動性選好理論および IS-LM 分析について学習し、これらの知識を前提として「閉鎖経済」下でのマクロ経済政策効果を分析します。		
授業計画			
第 1 回	イントロダクション		
第 2 回	GDP の考え方 1 (GDP 統計の 3 大原則)		
第 3 回	GDP の考え方 2 (名目 GDP と実質 GDP)		
第 4 回	財市場 1 (総需要の構成要素)		
第 5 回	財市場 2 (45 度線分析)		
第 6 回	財市場 3 (有効需要の原理)		
第 7 回	財市場 4 (乗数理論)		
第 8 回	前半のまとめ		
第 9 回	資産市場 1 (貨幣とは何か)		
第 10 回	資産市場 2 (ケインズの流動性選好理論)		
第 11 回	IS-LM 分析 1 (生産物市場の均衡-IS 曲線)		
第 12 回	IS-LM 分析 2 (貨幣市場の均衡-LM 曲線)		
第 13 回	IS-LM 分析 3 (生産物市場と貨幣市場の同時均衡分析: IS-LM 分析)		
第 14 回	経済政策の有効性 (財政政策・金融政策の効果)		
第 15 回	総まとめ		
第 16 回	定期試験		
授業時間外の学習	授業後には、授業内容を復習し、重要概念および分析手法を再確認してください (1.5 時間程度)。		
履修条件 受講のルール	経済学入門、現代経済入門の単位修得を前提とします。		
テキスト	指定しません。		
参考文献・資料	吉川洋 「マクロ経済学 (第 4 版)」 岩波書店 (2017) ブランチャール 「マクロ経済学 (上)」 東洋経済新報社 (1999) など		
成績評価の方法	小テスト(20%), 定期試験(80%) ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・遅刻は欠席と同等に扱います。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。		
オフィスアワー	月曜日 4 限、水曜日 4 限とします。		

成績評価基準	2016年以降に入学した学生：秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 2015年以前に入学した学生：優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	経済理論系の科目は、授業後の復習を行うとともにインターネット、テレビ、新聞、雑誌等で日本経済および世界経済のマクロ経済動向を積極的に把握するように努めることが重要です。

科目名	国際経済学Ⅱ	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）
			経済学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択
英文表記	International Economics II	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな	さかもと こういち	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	坂元 浩一	修得単位	2単位
授業のテーマ	国際経済取引について、仕組みと現状を理解する。		
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 日本の国際経済取引の全体と主な活動（貿易と投資）を十分に理解できるようになります。 2. 世界経済や主要国の経済の動向を知ることができます。 3. 経済関係の新聞や雑誌を読めるようになります。		
授業概要	本講義は国際経済学Ⅰを踏まえて開講されます。国際経済取引の主な構成要素の続きとして、証券投資を扱います。その後に、国際経済の制度と政策、そして経済協力を扱います。さらに、日本に加えて、事例国を挙げて説明します。		
授業計画			
第1回	イントロダクション（主な内容、アプローチ）		
第2回	証券投資、金融市場、世界経済の動き		
第3回	金融の基本		
第4回	証券投資（基本のみ。詳細は将来開講される国際金融論で扱う）		
第5回	国際経済制度		
第6回	国際金融制度		
第7回	主な国際経済・金融政策		
第8回	2008年の世界金融危機までの歴史		
第9回	世界金融危機後の動向と今後の方向		
第10回	経済協力		
第11回	事例国： 欧米の国々		
第12回	事例国： 東南アジアなど発展途上国		
第13回	事例国： 中国など新興国		
第14回	事例国： 貧困国（アフリカなど）		
第15回	まとめ		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	1. 授業で配るプリントや課題に十分に取り組んでください。（1時間程度） 2. 日頃から日本経済新聞やその他の経済誌に目を通すようにしてください。（0.5時間程度）		

履修条件 受講のルール	国際経済学Ⅰ、ミクロ経済学、そしてマクロ経済学を履修していることが望ましいです。しかし、未履修でも本授業に積極的に取り組むことにより、好成績で単位を取得できます。
テキスト	なし
参考文献・資料	坂元浩『教養系の国際経済論—総理解から次の一歩まで—』(電子書籍) 大学教育出版、2012年。 坂元浩『世界金融危機—歴史とフィールドからの検証—』 大学教育出版、2010年。 坂元浩『国際協力量マニュアル—発展途上国への実践的接近法—』 頸草書房、1996年。
成績評価の方法	【小テスト・レポート(40%)、定期試験(60%)】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解および予習・復習が充分であるかを確認するため、授業中にミニ・テストを行うことがあります。
オフィスアワー	毎週火曜日・金曜日 14:30~16:30 これ以外の時間帯も、在室時は可能な限り対応します。
成績評価基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生への メッセージ	これだけ国際化が進んだ日本および世界を、正しく理解できるようになってください。国際経済取引の理解は、企業での仕事では当然必要であり、また日々の生活でも役に立ちます。 教員の数多くの海外経験を聞くことにより、皆さんが国際経済をより身近に捉えられるようになると考えます。

科目名	ビジネス倫理学	科目分類	■専門科目群 (第1グループ)
			□総合科目群 (第2グループ)
			経済学科 □必修 ■選択
			学科 □必修 □選択
英文表記	Business Ethics	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年
ふりがな	にしまき じょうじ	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	西巻 丈児	修得単位	単位
授業のテーマ	<p>ビジネスの価値基準 (例えば、利潤や業績の高低など) と、人間の行為における善悪 (例えば、「～するべきだ」、「～するべきではない」など) を扱う倫理学の価値基準を掛け合わせたところに成立する、応用倫理学の一分野が「ビジネス倫理学」である。</p> <p>例えば、非倫理的なことをしているが業績は好調である企業と、人のためになっているが業績は低調な企業などに関して、それぞれの業績と倫理的な価値を共に高くしていくためには、いかにしたらよいかを考えるのもその一例である。</p> <p>本授業では、営利を目的とする企業の基本的性格を理解するとともに、倫理観の見つめ直しを通じて、ビジネス倫理の実践が企業の存続に必要な不可欠であることを理解する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス倫理学の本質と意味を説明できる。 ・ビジネス倫理学の必要性を説明できる。 		
授業概要	<p>現代社会においては、さまざまな場面で倫理の必要性が叫ばれている。倫理の必要性は、企業側だけに求められるものではなく、消費者側にも倫理観に敏感なることが要求されている現状がある。</p> <p>この授業では、まず理論的な倫理を理解することから始め、ビジネスの場面で実際に起こったケースを見ることによって、現場からの実践としての倫理の側面も学ぶ。その結果、理論と実践を併せ持った、より現状に則したビジネス倫理を考えていく。</p>		
授業計画			
第1回	イントロダクション ―なぜビジネス倫理学を学ぶのか―		
第2回	ビジネスの倫理学とは		
第3回	理論としてのビジネス倫理		
第4回	倫理的利己主義とリバタリアニズム		
第5回	功利主義と費用・便益分析		
第6回	義務論に基づくビジネス倫理		
第7回	正義論に基づくビジネス倫理		
第8回	実践としてのビジネス倫理		
第9回	従業員関連の倫理		
第10回	顧客関連の倫理		
第11回	地域社会の倫理		
第12回	国際ビジネスの倫理		
第13回	制度としてのビジネス倫理1 ―企業内制度―		
第14回	制度としてのビジネス倫理2 ―民間支援制度―		
第15回	まとめ		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	<p>予習：(1.5時間程度)</p> <p>授業で取りあげる内容に沿って、事前にテキストを読んでおく。</p> <p>また、企業の行動と倫理に関する情報について、書籍・ニュースなどを授業内で紹介するので、そこでは何が問題とされ、問題の所在がどこにあるのかなど、自分なりに分析しておくこと。</p> <p>復習：(1.5時間程度)</p>		

	<p>① 授業を振り返って内容を整理する。</p> <p>② 理解できていない事柄を、次の授業で適確に質問できるよう用意する。</p>
履修条件 受講のルール	<p>教科書を必ず購入すること。</p> <p>予習・復習を必ずして、積極的に授業に参加すること。</p>
テキスト	『ビジネスの倫理学』梅津光弘 丸善出版
参考文献・資料	授業内で適宜指示する。
成績評価の方法	<p>毎回提出してもらいアクションペーパーによる理解度(40%)、定期試験(60%)を総合的に評価する。</p> <p>出席回数が規定に満たない場合、授業料その他納入金が未納の場合は、試験を受けることができない。</p> <p>また、欠席、遅刻、私語、居眠り、無断退出等については減点の対象とする。</p>
オフィスアワー	
成績評価基準	<p>平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p> <p>平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p>
学生への メッセージ	<p>将来社会に出て、企業の一員となったときにどのような行動をとるべきか、今から各自の倫理観を培うことを心がけるようにしよう。</p> <p>消費者という現身分においては、ビジネスの倫理に敏感になろう。</p>

授業科目名：自然科学概論Ⅱ	単位数：2単位	担当教員名：村中孝司
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>宇宙、太陽系・地球、日本列島の特色について概観し、自然科学の本質と学問的な特色、科学的方法と論理的思考について修得する。自然現象への理解を通して、科学的な考え方を身につける。</p> <p>到達目標として、以下の3点を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本列島の自然や地球、宇宙空間など様々なスケールでの自然の成り立ちを概観し、生多様な自然現象の要因を探るとともに、人間社会との結びつきを理解し、説明できる。 2. 自然科学および広く学問の成り立ちや歴史を理解し、説明できる。そして、これまで生み出されてきた自然科学の法則の背景に迫る。 3. アジアとヨーロッパの自然に対する見方・考え方を比較し、自然、自然破壊、自然保護、環境保全に対する人々の考えを理解し、説明できる。東洋と西洋の学問的発達の違いを見出す。 		
<p>授業の概要</p> <p>人類は科学的な発見や発明を繰り返して、自然現象を明らかにしてきた。未知の自然現象に対して、科学者は現象に関する情報や問題点を発見、蓄積、整理し、分析することを通して仮説の検証を試みてきた。「自然科学」はいったいどのようにして生み出され、どのような道筋で発達してきたのか。講義では、宇宙の誕生と進化、日本の自然の特色、科学の要件と科学的な研究の方法を理解することを目的とする。</p>		
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 自然科学とは何か</p> <p>第2回：宇宙の進化 古代の宇宙論から現代の宇宙論へ、宇宙の誕生と光・重力・物質</p> <p>第3回：元素と物質の誕生 恒星のエネルギー源、元素、時空間の移動</p> <p>第4回：太陽系と地球、日本列島の自然 恒星系、太陽系、地球、地震と火山</p> <p>第5回：日本の森林 日本の森林の豊かさ、自然景観と名所、新緑・紅葉、原生林と二次林</p> <p>第6回：日本の里山 二次的自然、里山からの恵み、自然と人間との関わり</p> <p>第7回：日本の川 急流河川、山から海へ、回廊としての川、川からの恵みと農業の発達</p> <p>第8回：自然科学の誕生と歴史 自然学から近代自然科学へ、科学の大革命と近代自然科学の誕生</p> <p>第9回：科学の方法 論理、演繹と帰納、観察と実験、主観と客観</p> <p>第10回：科学的仮説と発見の論理 アブダクション、仮説の発見、問題の発見</p> <p>第11回：情報の分類 分類、元素の周期表、二名法、学名</p> <p>第12回：情報の収集と分析 標本抽出、比較、平均と標準偏差、原因と結果</p> <p>第13回：科学論文の執筆 論文とはなにか、科学的な説明の方法、査読</p>		

第14回：自然観 自然に対する人間の考え、西洋と東洋の自然観

第15回：農耕の起源と伝播 自然と人間生活、根栽農耕文化

定期試験

テキスト

濱田嘉昭『科学的探求の方法』放送大学教材

参考書・参考資料等

岸根順一郎・大森聡一『自然科学はじめの一步』放送大学教材

学生に対する評価

【定期試験(60%)、レポート(30%)、授業中の課題(10%)】

上記評価項目を基にして総合的に判断します。

科目名	地域経済政策論	科目分類	■専門科目群 (第1グループ)
			□総合科目群 (第2グループ)
英文表記	Regional Policy of Economy	開講年次	□1年 □2年 ■3年 ■4年
ふりがな	のぐち ひでゆき	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	野口 秀行	修得単位	2単位
授業のテーマ	ローカルアベノミクスと地方経済の生産性		
到達目標	地域経済の現状と課題の整理と課題の解決策を自ら考える		
授業概要	秋田が抱える課題を考察するとともにアベノミクスの地方創生法に活路を見出す		
授業計画			
第1回	アベノミクスと地方創生①～戦後日本経済と地方経済 なぜ地方は東京の黒子になり下がったのか		
第2回	アベノミクスと地方創生②～少子化を生んだ秋田の産業政策の混乱		
第3回	情報通信産業振興政策と地域経済～日本の中堅企業が日本経済の成長エンジン		
第4回	地方産業インフラ整備と地域経済①～震災復興は何処まで来たのか		
第5回	地方産業インフラ整備と地域経済②～移動革命の実現 HVからEVへ 脱炭素革命への認識は如何		
第6回	地方経済が一気にグローバル化する可能性～北上におけるILCは		
第7回	地方創生と産業クラスター論～サプライチェーンの次世代化		
第8回	コネクテッドインダストリーズと秋田の産業振興策～飯田市における航空宇宙産業		
第9回	秋田のリーディング企業～世界的な高シェア企業・世界最先端の技術～同和鉱業を事例に		
第10回	秋田の地域政策・都市政策～まちづくりの基礎 5Gで都市はどう変わるのか 20代に任せてみたら!		
第11回	増田レポートの根本的認識の間違い～スモールの経済 限界集落からの脱却と古民家空き家ビジネス		
第12回	国家戦略特区～事例分析を中心に①新潟市の最先端農業の可能性		
第13回	国家戦略特区～事例分析を中心に②湯沢市の高齢社会におけるITリテラシー		
第14回	地域成長支援ファンドとハンズオン投資そしてICO～広がる地方の選択と成長可能性		
第15回	激変する社会経済と秋田の可能性 克服すべき課題とは 如何に過去の成功体験を振り切れるか		
第16回	期末試験		
授業時間外の学習	予習復習の徹底、事前配布のプリントに目を通しておくこと		
履修条件 受講のルール	地域に関心を有していること		
テキスト	プリント配布		
参考文献・資料	追って連絡します		
成績評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。 出席回数が規定に満たなかった場合、その他納入金未納の場合は試験を受けることができません。		
オフィスアワー	火曜日午後及び水曜日全日		
成績評価基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)		

学生への
メッセージ

秋田を元気にするために何が必要かを一緒に学びましょう

授業科目名： 教育学入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：市原光匡 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>現在、教育が抱えるさまざまな問題について、多くの人々が各自「教育論」を展開している。教育との関わりはほとんど誰もがもつものである以上、それは当然のことともいえよう。しかし「教育論」だけで、教育の抱えるさまざまな問題を語るには限界がある。教育について議論するには「教育論」だけではなく、「教育学」の基本的な知識と考え方が必要である。このような観点から、この授業では、以下の 3 点において、教育学の基本的な知識と考え方を修得し、自ら考える力を習得することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の歴史と公教育制度の成立のあらましを理解し、説明ができること。 2. 近現代の教育をめぐる思想を理解し、それぞれの区別ができること。 3. 教育学の研究枠組みを理解し、説明ができること。 			
<p>授業の概要</p> <p>学問分野としての教育学を理解するにあたって、現代社会における教育の現状と課題を概観し、教育の役割を確認しながら教育学の研究手法に触れる。また、近現代の教育思想をふり返り、現代の教育を考える示唆を得る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：教育とは・教育の目的とは</p> <p>第3回：教育問題を考える (1) いじめ</p> <p>第4回：教育問題を考える (2) 不登校</p> <p>第5回：教育問題を考える (3) 体罰と生徒指導</p> <p>第6回：教育問題を考える (4) 学力問題</p> <p>第7回：教育問題を考える (5) 家庭教育</p> <p>第8回：近代教育の思想の形成 (1) 西洋の近代教育思想 (教育史・教育哲学)</p> <p>第9回：近代教育の思想の形成 (2) 日本の近代教育思想 (教育史・教育哲学)</p> <p>第10回：近代教育思想の制度化 (1) 海外の教育制度史 (教育制度論)</p> <p>第11回：近代教育思想の制度化 (2) 日本の教育制度史 (教育制度論)</p> <p>第12回：近代教育の超克 (1) 新教育思想 (教育哲学)</p> <p>第13回：近代教育の超克 (2) 生涯教育論 (生涯学習論・社会教育学)</p>			

第14回：近代教育の超克（3）教育改革（教育制度論・比較教育学）

第15回：現代教育の問題とは（その他の研究領域）

定期試験

テキスト

テキストは特に指定しない。

参考書・参考資料等

小川正人・森津太子・山口義枝〔編著〕『心理と教育を学ぶために』放送大学教育振興会，2012. その他授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

平常点 30%、定期試験 70%の比率で評価する。

科目名	地域づくり論	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			経済学科 □必修 ■選択 国際観光学科 □必修 ■選択
英文表記	Regional Economy	開講年次	経済 ■1年□2年□3年□4年 観光 □1年■2年□3年□4年
ふりがな	のぐち ひでゆき	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	野口 秀行	修得単位	2単位
授業のテーマ	わが国の新たな輸出産業は「日本の文化」だといわれる。世界が注目するクール・ジャパンとは何か？ 地方創生法の施行は、従来の地域づくりにとほどのように変わっていくのかを考察する。		
到達目標	地域経済の現状と課題の整理と課題の解決策を自ら考える		
授業概要	成熟化した日本経済と地域経済の新たな選択とは何かを探る		
授業計画			
第1回	地域とは何か～地域政策の変遷		
第2回	地域協働とコミュニティ再生 (1) ～江戸時代の割地と川端 (かばた) を事例として		
第3回	地域協働とコミュニティ再生 (2) ～沖縄国頭村の共同店舗と道の駅		
第4回	世界的な潮流としてのソーシャルビジネス (社会起業)		
第5回	欧州のソーシャルビジネスを支えるソーシャルファイナンス (意思のあるお金)		
第6回	我が国のソーシャルビジネス (社会起業) 事例		
第7回	我が国のソーシャルビジネスを支える新たなファイナンス～クラウド・ファインディング		
第8回	インバウンド観光と地方経済の活性化～DMO		
第9回	ソーシャル・インパクト投資～ARUN合同会社		
第10回	TPPと地方農業の革新～新潟のICT農業		
第11回	震災復興と地域協働～コミュニティの再生		
第12回	中心市街地の活性化と秋田～外旭川のイオンモール計画		
第13回	秋田におけるNPO・コミュニティビジネス・スモールビジネス		
第14回	秋田の地域づくりとは～秋田のNPO・コミュニティ・ビジネスが抱える問題		
第15回	地方創生法の概要～国家戦略特区とハンズオン投資		
第16回	期末試験		
授業時間外の学習	予習復習の徹底、事前配布のプリントに目を通しておくこと		
履修条件 受講のルール	地域に関心を有していること		
テキスト	プリント配布		
参考文献・資料	追って連絡します		
成績評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。		
オフィスアワー	火曜日午後及び水曜日全日		
成績評価基準	平成28年度 (2016) 以降入学した学生 秀 (100～90点)、優 (89～80点)、良 (79～70点)、可 (69～60点)、不可 (59点以下) 平成27年度 (2015) 以前に入学した学生 優 (100～80点)、良 (79～70点)、可 (69～60点)、不可 (59点以下) ※出席回数が規定に満たない場合、授業料その他納入金が未納の場合は試験を受けることができません。		

学生への
メッセージ

高齢化が進む中でコミュニティを再生するとともに地域経済を活性化する方策を学びます。

科目名	公共政策科学	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			経済学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択
英文表記	Science and Public Policy	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな	くすやま ひろあき	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	楠山大暁	修得単位	2単位
授業のテーマ	公共政策とは何か、また、資源の配分や所得の再分配を理解する。		
到達目標	解決すべき社会問題を発見し、経済学的根拠に基づいた自分なりの解決方法を考えられるようにする。		
授業概要	あなたには解決したい悩み(問題)があるでしょうか? もしかしたらそれは、あなたの個人的な問題ではなく、社会全体で解決すべき問題なのかもしれません。では、個人的な問題と社会的な問題はどのように区別されるのでしょうか? 本講義ではそもそも公共政策と何かを議論した後、具体的に家族介護の問題を取りあげ分析します。必要な介護労働のうち、どこまでを家族で担い、どこからを社会に任せるべきでしょうか? そんな問いへの答えを考えてみることにします。		
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回	公共政策とは何か		
第3回	介護保険制度① 相互扶助の系譜		
第4回	介護保険制度② なぜ、介護の社会化が必要となったか		
第5回	介護保険制度③ 居宅サービス		
第6回	介護保険制度④ 施設サービス		
第7回	家族介護の限界① 現代家族の変容		
第8回	中間テスト		
第9回	家族介護の限界② 介護離職、レスパイトケア		
第10回	地域包括ケアシステム		
第11回	付加価値の計測 生産活動とは何か		
第12回	無償労働の貨幣評価		
第13回	医療と介護		
第14回	税と社会保障の一体改革		
第15回	総まとめ		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	1. 授業前にプリントの問題に目を通してください。理解できる箇所、理解できない箇所を明確にしてください。(2時間程度) 2. 授業後に、プリントの復習をしっかりと、すべてを理解できるようにしてください。(2時間程度)		
履修条件 受講のルール	行政学Ⅰ、公共政策論を履修していることが望ましい。 教科書を購入してください。		
テキスト	権丈善一(2018)『ちょっと気になる医療と介護』勁草書房		
参考文献・資料	秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉(2018)『公共政策学の基礎(新版)』有斐閣		
成績評価の方法	【中間テスト(40%)、定期試験(60%)】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受ける		

	<p>ことができません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解、および予習復習が充分であることを確認するため、第8回授業時に中間テストを行います。
オフィスアワー	<p>毎週月曜日・金曜日 9:00~10:30 ※これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。</p>
成績評価基準	<p>平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p>
学生へのメッセージ	<p>もし、皆さんが政策担当者なら、どんな社会問題を解決したいでしょうか？ また、その社会問題を解決するためにはどうすればよいでしょうか？</p>

科目名	労働経済学	科目分類	■専門科目群 (第1グループ)
			□総合科目群 (第2グループ)
			経済学科 □必修 ■選択
			学科 □必修 □選択
英文表記	Labor Economics	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年
ふりがな	ふじもと つよし	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	藤本 剛	修得単位	2単位
授業のテーマ	労働市場、労働条件・労働環境、労使関係について基礎知識を学び、働くことへの理解を深めます。		
到達目標	労働に関連する知識や理解を深め、働くことに対する自らの意識を充実させることです。		
授業概要	3年後半になると就職活動が現実になってきます。この授業では「働く」ときに直面することになるさまざまな問題を社会政策の側面から取り上げ、制度や仕組み、現状と課題などについて共に考えていきます。近年、年功序列、終身雇用などを特徴としてきたわが国の労働市場が、派遣やパート労働、契約雇用など流動性を増大させており、また成果主義による賃金の導入も拡大しています。さまざまな労働をめぐる問題について、より踏み込んで分析し、確かな判断力と今後への指針を得るのがこの科目の目標です。		
授業計画			
第1回	労働経済学とは何か		
第2回	労働市場をどう捉えるか (指標)		
第3回	労働市場政策① (雇用・失業対策)		
第4回	労働市場政策② (女性、若者)		
第5回	労働市場政策③ (高齢者、障害者、外国人)		
第6回	労働時間をめぐる政策の流れ		
第7回	今日の労働時間問題とワークシェアリング		
第8回	賃金制度		
第9回	賃金政策 (最低賃金制など)		
第10回	日本の賃金と賃金政策		
第11回	今日の賃金問題 (成果主義・年俸制など)		
第12回	労使関係とは		
第13回	労働組合		
第14回	日本の労使関係 (歴史)		
第15回	日本の労使関係 (現状)		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	授業の予習・復習を心がけてください。(0.5時間程度) 授業で取り上げるテーマに関連するレポートやメッセージを求めることがあります。		
履修条件 受講のルール	日頃からテレビや新聞などで、賃金や労働時間に関連するニュース、働き方改革や春闘などに関する情報に関心を持ってチェックしてください。(0.5時間程度)		
テキスト	プリントを使用します。		
参考文献・資料	『公務員Vテキスト12 社会政策』第12版 TAC出版 『労働経済白書』各年版		
成績評価の方法	レポート(30%)、定期試験(70%) 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。		

	・レポート課題は授業内又は掲示板上で指示します。
オフィスアワー	火曜日・水曜日の16時～17時
成績評価基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	労働力人口の減少が進む中で、働く現場でさまざまな変化が生じています。何が変わり、変わっていないのは何か。これから社会に出て行く上で、知っておきたい知識を身につけてください。

科目名	経済成長論	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)	
			経済学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Economic Growth Theory	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年	
ふりがな	はたけやま あきのぶ	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	畠山 光史	修得単位	2単位	
授業のテーマ	経済成長理論への入門授業です。			
到達目標	学生は、経済成長理論の基礎概念および基本的な分析手法を習得できる。			
授業概要	本授業では、最初に短期的な経済変動である景気循環に関する基礎概念について学習します。次いで、3つの経済成長理論(ケインズ派モデル、新古典派モデル、内生的成長モデル)について理論モデルを学習します。			
授業計画				
第1回	イントロダクション			
第2回	景気循環論1 (景気循環の定義と景気動向指数)			
第3回	景気循環論2 (4つの景気循環)			
第4回	景気循環論3 (景気循環の要因—貨幣的か実物的か)			
第5回	景気循環論4 (投資の重要性—加速度原理)			
第6回	ケインズ派の経済成長論1 (ハロッド=ドーマー・モデル—入門)			
第7回	ケインズ派の経済成長論2 (ハロッド=ドーマー・モデル—応用)			
第8回	ケインズ派の経済成長論3 (ハロッド=ドーマー・モデル—演習)			
第9回	新古典派の経済成長論1 (ソロー・モデル—入門)			
第10回	新古典派の経済成長論2 (ソロー・モデル—応用)			
第11回	新古典派の経済成長論3 (ソロー・モデル—演習)			
第12回	「新しい」古典派の経済成長論1 (内生的成長モデル—入門)			
第13回	「新しい」古典派の経済成長論2 (内生的成長モデル—応用)			
第14回	「新しい」古典派の経済成長論3 (内生的成長モデル—演習)			
第15回	総まとめ			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	授業後には、授業内容を復習し、重要概念および分析手法を再確認してください (1.5時間程度)。			
履修条件 受講のルール	ミクロ経済学I・II, マクロ経済学I・II, 基礎数学I・IIの単位修得を前提とします。			
テキスト	指定しません。			
参考文献・資料	ブランチャール 「マクロ経済学(下)」 東洋経済新報社 (2000) フォーリー, マイクル 「成長と分配」 日本経済評論社 (2002)など			
成績評価の方法	複数回の課題(20%), 定期試験(80%) ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・遅刻は欠席と同等に扱います。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。			
オフィスアワー	月曜日4限、水曜日4限とします。			

成績評価基準	2016年以降に入学した学生：秀(100～90点), 優(89～80点), 良(79～70点), 可(69～60点), 不可(59点以下) 2015年以前に入学した学生：優(100～80点), 良(79～70点), 可(69～60点), 不可(59点以下)
学生へのメッセージ	経済理論系の科目は, 授業後の復習を行うとともにインターネット, テレビ, 新聞, 雑誌等で日本経済および世界経済のマクロ経済動向を積極的に把握するように努めることが重要です。

科目名	簿記入門 I	科目分類	■ 専門科目群 (第1グループ) □ 総合科目群 (第2グループ)
			経済学科 □ 必修 ■ 選択
			学科 □ 必修 □ 選択
英文表記	An Introduction to Bookkeeping I	開講年次	■ 1年 □ 2年 □ 3年 □ 4年
ふりがな	くにいのりお	開講期間	□ 前期 □ 後期 ■ 通年 □ 集中
担当者名	國井法夫	修得単位	4単位
授業のテーマ	3級の範囲をわかりやすく説明するとともに、問題をやる。		
到達目標	日商簿記検定試験3級に合格		
授業概要	普通科出身の学生を対象にわかりやすく解説して行く。		
授業計画			
第1回	簿記の意味・目的・種類	第17回	売掛金と買掛金(2) 買掛金とは その処理
第2回	簿記の基礎概念(1) 資産・負債・資本について	第18回	その他の債権と債務(1) 貸付金・手形貸付金等の処理
第3回	簿記の基礎概念(2) 費用と収益について	第19回	その他の債権と債務(2) 未収金・未払金等の処理
第4回	取引と勘定と仕訳(1) 経済取引を仕訳にする	第20回	手形(1) 手形とは
第5回	取引と勘定と仕訳(2) 経済取引を仕訳にする	第21回	手形(2) 手形の処理方法
第6回	帳簿の記入 帳簿への記入方法	第22回	有価証券・固定資産
第7回	決算と財務諸表(1) 貸借対照表について	第23回	減価償却 減価償却とは その処理方法
第8回	決算と財務諸表(2) 損益計算表について	第24回	資本金と引出金 処理方法について
第9回	現金預金取引(1) 現金等の処理	第25回	試算表の作成 仕訳から総勘定元帳への転記の確認
第10回	確認小テスト	第26回	税金、帳簿と伝票 3伝票制の処理について
第11回	現金預金取引(2) 当座預金の処理	第27回	決算と財務諸表 決算手続きについて
第12回	現金預金取引(3) 当座・当座買い越しについて	第28回	決算と財務諸表 売上原価の計算とその処理について
第13回	商品売買(1) 分記法	第29回	決算と財務諸表 費用収益の繰延べと見越し等
第14回	商品売買(2) 3分法について	第30回	精算表等の作成
第15回	売掛金と買掛金(1) 売掛金とは その処理	第31回	損益計算書と貸借対照表の作成
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験
授業時間外の学習	復習と問題演習		
履修条件・受講のルール	欠席しない。授業は静かに聞くこと。		
テキスト	日商簿記3級 光速マスターNEO テキスト 第4版【2019年度新出題区分対応】(光速マスターシリーズ)		
参考文献・資料			
成績評価の方法	試験の得点(60%)・レポート提出(10%)・出欠・学習態度(30%)等で総合評価します。出席回数が規定に満たない場合、授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。		
オフィスアワー	金曜日4時間目		
成績評価の基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)		
学生へのメッセージ	欠席せず、静かに授業を聞き、積極的に問題演習ができる人のみ受講してください。		

科目名	民法総則	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)	
			法律学科	□必修 ■選択
			国際観光学科	□必修 ■選択
英文表記	Civil Law (general part)	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
ふりがな	さとう かつえ	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	佐藤 克枝	修得単位	4単位	
授業のテーマ	民法全体に共通する事項について学ぶ。			
到達目標	民法の全体像について修得し、今後の学習に活かすことができる。			
授業概要	民法総則は、今後学んでいく民法全体に共通して適用されるルールです。共通ルールという性質上、抽象的な概念が出てきますが、本講義では、先ず民法とは何かを確認したのち、民法全体を概観して、可能な限り具体例を示しながら民法総則を学んでいきます。			
授業計画				
第1回	ガイダンス	第17回	代理(1)代理の基本構造①	
第2回	民法の対象範囲・民法典の概要	第18回	代理(2)代理の基本構造②	
第3回	民法の特徴—私的自治の原則	第19回	代理(3)代理権の濫用等	
第4回	民法総則の性質と学習の順序	第20回	代理(4)無権代理と表見代理①	
第5回	債権法の概観・契約法の重点学習	第21回	代理(5)無権代理と表見代理②	
第6回	不法行為法の重点学習・債権総論の概観	第22回	無効・取消し(1)総説	
第7回	物権法の概観	第23回	無効・取消し(2)効果・追認	
第8回	家族法の概観	第24回	条件・期限	
第9回	意思表示総論	第25回	住所・失踪	
第10回	意思表示各論(1)心裡留保	第26回	時効(1)総説・期間の計算	
第11回	意思表示各論(2)虚偽表示①	第27回	時効(2)更新と完成猶予・援用	
第12回	意思表示各論(3)虚偽表示②	第28回	時効(3)例題研究	
第13回	意思表示各論(4)錯誤	第29回	法人	
第14回	意思表示各論(5)詐欺・強迫	第30回	後半のまとめ	
第15回	意思表示の効力	第31回	定期試験	
第16回	前半のまとめ・中間試験			
授業時間外の学習	1. 授業前には教科書の該当箇所には必ず目を通してください。(2時間程度) 2. 単元毎に、前回講義内容の確認を行います。講義の復習をしっかりと行ってください。(2時間程度)			
履修条件 受講のルール	民法入門の単位を修得済みであることを前提に講義を進めます。 適宜資料を配布します。講義の際は、前回までに配布した資料を必ず持参して下さい。			
テキスト	池田真朗『スタートライン民法総論(第3版)』日本評論社			
参考文献・資料	原田昌和ほか『民法総則』(日本評論社)、平野裕之『コア・テキスト民法I 民法総則(第2版)』(新世社)、大村敦志『新基本民法1 総則編』(有斐閣)、佐久間毅『民法の基礎1 総則(第4版)』(有斐閣)、内田貴『民法I 総則・物権総論(第4版)』(東京大学出版会)、角紀代恵『コンパクト民法I 民法総則・物権法総論(第2版)』新世社、原田昌和ほか『民法①総則 判例30!』(有斐閣)			
成績評価の方法	【試験(中間40%、期末40%)、受講態度20%】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。			

オフィスアワー	月曜日09:00~10:30・水曜日14:40~16:10
成績評価の基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	総則では、民法全体にかかわる原則を学習します。具体例をイメージしながら学習を進めましょう。わからないことは積極的に質問して下さい。

科目名	刑法総論	科目分類	■専門科目群 (第1グループ)	
			□総合科目群 (第2グループ)	
			法律学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Criminal Law (general part)	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	あきやま えいいち	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	秋山 栄一	修得単位	4 単位	
授業のテーマ	犯罪論の基本的理解による体系的思考の構築			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日ごろ、マスコミなどによって報道される刑事事件、事故をはじめとした社会の事象を刑法学的観点から考えることができる。 ・犯罪成立要件の概要を体系的に理解することができる。 ・その他、物事を論理的に考えることができる。 			
授業概要	<p>犯罪と刑罰に関する法律である刑法は、私達の日常生活に密接にかかわっている。刑法は身近な存在でなければならない。市民に理解された行為規範として機能すべきである刑法は、その理論性、思想性を前提とした学説の対立の激しさの故に、敬遠されがちでもある。そこで、本講義では、基本用語の理解から刑法の機能や犯罪の理論的把握、刑罰の根拠などの基本的問題について理解しやすくするために、判例の動向や事例を活用して体系的に段階的に議論を進めていく。講義の進行方式としては、單元ごとにレジュメを配布し、その流れに従っていく予定である。なお、必ずしも指定のテキスト及び本シラバスの順序に従うとは限らないことがあることをお断りしておく。</p>			
授業計画				
第1回	講義ガイダンス 刑法を学ぶ前提としての基本概念の理解	第17回	責任② 責任能力	
第2回	刑法及び刑法学概念 法の意義・規範・機能	第18回	責任③ 責任故意・過失と違法性の意識、違法性の錯誤	
第3回	刑法及び刑法理論 刑法思想・学説史	第19回	責任④ 期待可能性	
第4回	刑法の基本主義 罪刑法定主義・責任主義等	第20回	修正された構成要件該当性① 未遂犯 (障害未遂)	
第5回	犯罪論の基礎と体系 構成要件の意義と機能	第21回	修正された構成要件該当性② 中止犯・不能犯	
第6回	基本的構成要件該当性① 実行行為とその諸問題	第22回	修正された構成要件該当性③ 共犯論の基礎、共同正犯	
第7回	基本的構成要件該当性② 因果関係	第23回	修正された構成要件該当性④ 教唆犯・従犯	
第8回	基本的構成要件該当性③ 構成要件の故意・過失	第24回	修正された構成要件該当性⑤ 共犯をめぐる諸問題	
第9回	基本的構成要件該当性④ 事実の錯誤	第25回	小括	
第10回	違法性の本質	第26回	罪数論	
第11回	違法性阻却事由① 正当防衛	第27回	刑罰論の本質	
第12回	違法性阻却事由② 緊急避難	第28回	刑の種類、刑の量定、執行	
第13回	違法性阻却事由③ 正当行為	第29回	後半の総括	
第14回	違法性をめぐる諸問題	第30回	全体の総括	
第15回	前半の総括	第31回	定期試験	

第16回	責任① 責任論の本質と構造		
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に指定されたテキストを一度は必ず一通り読む。それを踏まえ、次回の講義の単元を読んで講義に臨む(1.5時間程度)。 ・毎回の講義の復習を行うこと(1.5時間程度)。 ・日頃から、新聞やニュースなどの報道に触れることによって日々の刑事事件等の報道に関心を持ち、社会の出来事に目を向け、耳を傾けること。 		
履修条件 受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法入門、民法入門、刑法入門、刑法各論を履修済であることが望ましい。 ・指定テキストを購入すること。 ・記載の通り、単元ごとにレジュメを配布するが、欠席等で受け取ることができなかった場合は、秋山研究室に自身で受け取りにくること。 		
テキスト	井田良『入門刑法学・総論〔第2版〕』有斐閣 2018		
参考文献・資料	井田良『講義刑法学・総論〔第2版〕』有斐閣・2018、同『入門刑法学・各論〔第2版〕』有斐閣・2018、大塚仁『刑法概説(総論)〔第4版〕』有斐閣・2008、山口厚・佐伯仁志編『刑法判例百選I〔第7版〕』有斐閣・2014、その他講義内で適宜指示・紹介する。		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験70%、小テスト・レポート20%、授業態度等10%の割合で、厳正に評価する。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができない。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とする。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とする。 ・授業の理解、および予習復習が充分であることを確認するため、授業中に小テストを行うことがある。 ・レポート課題がある場合には、授業内又は掲示板で指示する。 		
オフィスアワー	原則として、火曜日 9:00~10:30、水曜日 14:40~16:10 ※ 事前に連絡をもらえるとありがたい。その他時間が空いていれば適宜対応する。		
成績評価の基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)		
学生へのメッセージ	指定テキスト・最新の六法・ノート・配布レジュメを必携のこと、また積極的な講義参加を望む。		

科目名	人 権	科目分類	■専門科目群(第1グループ) □総合科目群(第2グループ)	
			法律学科	□必修 ■選択
			国際観光学科	□必修 ■選択
英文表記	Human right	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
ふりがな	わたべ たかあき	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	渡部 高明	修得単位	4単位	
授業のテーマ	憲法は、国民の誰もが大枠を知っておく意義ある、国の基本法です。 日本国憲法における、人権の意義と憲法条文の解釈、および憲法判例の理解をテーマとします。			
到達目標	憲法の存在意義と人権の必要性、具体的な裁判事例を理解することができる。			
授業概要	憲法の意義、日本国憲法の成立と展開、人権規定の内容と判例を、とりわけ戦後の憲法学をリードしてきた芦部信喜教授のテキストを中心に理解することで、現代人権論の基本的考え方を学ぶ。			
授業計画				
第1回	憲法学とは何か	第17回	信教の自由	
第2回	憲法と立憲主義	第18回	学問の自由	
第3回	立憲的憲法の特徴	第19回	表現の自由 I	
第4回	大日本国憲法と日本国憲法	第20回	表現の自由 II	
第5回	日本国憲法の成立過程	第21回	集会結社の自由・通信の秘密	
第6回	人権宣言の歴史、人権の観念	第22回	経済的自由権 I	
第7回	人権の内容、人権の享有主体	第23回	経済的自由権 II	
第8回	人権の限界—公共の福祉	第24回	人身の自由 I	
第9回	二重の基準論、特別権力関係	第25回	人身の自由 II	
第10回	私人間の人権保障	第26回	生存権	
第11回	個人の尊厳と幸福追求権	第27回	国務請求権、参政権	
第12回	法の下での平等 I	第28回	教育をうける権利	
第13回	法の下での平等 II	第29回	労働基本権 I	
第14回	思想良心の自由	第30回	労働基本権 II	
第15回	振り返り学習	第31回	振り返り学習	
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験	
授業時間外の学習	まずテキストを1回の授業分は読んできてください。そして、単に講義を聴くだけでなく、自ら事件や裁判例を通して、人権の諸問題と解決策を考えましょう。従って、具体的判例へのレポートを求めることがあります。また、毎日の新聞・ニュースに目を通すことをすすめます。			
履修条件 受講のルール	憲法入門、統治機構を履修していることが望ましい。			
テキスト	芦部信喜・高橋和之補訂『憲法第六版』(岩波書店)			
参考文献・資料	憲法判例(実務教育出版)			
成績評価の方法	試験(80%)、提出物(10%)、毎回のコメントシート(10%)			
オフィスアワー	毎週木曜日3限目と金曜日2時限目			
成績評価の基準	平成28年度(2016年)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015年)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) *出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。			

学生への
メッセージ

憲法の重要性と現実性を考えていきましょう。

科目名	観光論入門Ⅱ	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			国際観光学科 □必修 ■選択
英文表記	Introduction to Tourism Theory II	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	いとう え ひろし	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	井上 寛	修得単位	2単位
授業のテーマ	「観光」のキーワードを学ぼう		
到達目標	1. 観光学とはどのような学問なのか全体的に理解できるようになる 2. 観光学のキーワードを理解し、自分の言葉で説明できるようになる。		
授業概要	観光論入門Ⅰに引き続き、観光について専門的に学ぶ科目です。これから4年間観光を学ぶ上で必要な知識や考え方を学びます。特に、最新の観光について学ぶことを重視しますので、新聞やニュースの出来事を講義でも取り入れていきます。		
授業計画			
第1回	新しいツーリズムの形態1—エコツーリズム・グリーンツーリズム・ヘルスツーリズム		
第2回	新しいツーリズムの形態2—コンテンツツーリズム・フードツーリズム		
第3回	新しいツーリズムの形態3—ダークツーリズム・ユニバーサルツーリズム		
第4回	観光行動と情報		
第5回	効果的な観光情報の発信・提供方法		
第6回	観光産業の定義と種類		
第7回	観光産業・観光ビジネスの特徴		
第8回	旅行業の商品と形態		
第9回	旅行業と地域の関わり		
第10回	宿泊産業の歴史と発展		
第11回	観光と交通の関わり		
第12回	観光交通への新たな要請		
第13回	様々な観光ビジネス		
第14回	マーケティングと観光への応用		
第15回	復習		
第16回	定期試験		

<p>授業時間外の 学習</p>	<p><予習> 授業終了時に次回のキーワードを紹介しますので、教科書、参考文献、WEBサイトなどを活用し、予習をしてください。(90分程度)</p> <p><復習> ノートを確認し、テキストのself checkを使用し復習をしてください。(90分程度)</p> <p><その他> 新聞やテレビ、インターネットには「観光」の話題が豊富です。常日頃より観光のニュースに関心を持って生活してください。(30分程度)</p>
<p>履修条件 受講のルール</p>	<p>観光学を学ぶ上での基本となりますので、国際観光学科1年生は観光論入門I(前期)と併せてこの科目を受講してください。</p> <p>参考資料を印刷したA3サイズのプリントを毎時間配布しますので、バインダーを用意してください。</p>
<p>テキスト</p>	<p>JTB能力開発『観光学基礎—観光学入門のための14章』(第8版) 2019年 (2,260円+税)</p>
<p>参考文献・資料</p>	<p>週刊「観光経済新聞」観光経済新聞社 ※図書館1階にあります 観光庁 http://www.mlit.go.jp/kankocho 日本政府観光局(JNTO) http://www.jnto.go.jp</p>
<p>成績評価の方法</p>	<p>①定期試験(50%)…知識を問う問題と論述問題を課します ②レポート課題(20%)…パソコンで作成し提出してもらいます。正当な理由なく提出期限を守らなかった場合は加点しません。 ③小レポート(15%)…毎時間出席カードの裏面に書いてもらいます。なお、課題に対して満足に解答する姿勢が見られない場合は、加点しない場合があります。 ④取り組み姿勢(15%)…遅刻、マナー違反(私語・携帯操作・途中無断退席など)は加点しないほか、悪質な場合は欠席扱いとします。 ※出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、期末試験を受けることができません。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>毎週月曜日2時限(10:40~12:10) 毎週金曜日3時限(13:00~14:30)</p>
<p>成績評価基準</p>	<p>平成28(2016)年度以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27(2015)年度以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p>
<p>学生への メッセージ</p>	<p>2020年の東京オリンピック・パラリンピックをひかえ、日本全体が「観光」に大きな関心を寄せています。そして、政府は訪日外国人観光客数を4000万人にする目標を立てています。外国人観光客がたくさん日本に来て「お金儲け」ができれば、私たちは本当に幸せになれるのでしょうか?もちろんその部分も重要ではありますが、観光学はもっと深く、面白くて役に立つ学問です。</p>

科目名	観光と民俗	科目分類	■専門科目群 (第1グループ)
			□総合科目群 (第2グループ)
英文表記	Tourism and Folklore	開講年次	国際観光学科
			□必修 ■選択
ふりがな	かまだゆきお	開講期間	□1年 □2年 ■3年 □4年
担当者名	鎌田幸男	修得単位	□必修 □選択
授業のテーマ	観光とは具体的にどのようなことか。		
到達目標	観光客は民俗文化(伝統芸能や生活文化)に何を求めているかを知る。		
授業概要	観光は現代社会の大きな潮流となっている。民俗は暮らしの文化であるが、近年は伝統的な民俗文化に関心が向いている。世界文化遺産に登録されたものも少なくない。本講義では、「暮らしの文化」が観光化されることによりどのような影響を受けるかを考える。また民俗資源は、地域おこしや観光とどのように関るかにも触れる。		
授業計画			
第1回	講義の概要についての説明。民俗とは、観光とは、どのようなことかを考える。		
第2回	伝統文化にどのようなものがあるか(1)		
第3回	秋田県の伝統文化について考える(2)		
第4回	世界文化遺産に登録されている文化について(1)		
第5回	秋田県の世界文化遺産登録から(2)		
第6回	観光とは何か、語源と定義を考える。		
第7回	観光客が伝統的な民俗行事の見学に関心を示すのはなぜか		
第8回	課題発表、民俗文化をテーマにした観光計画を立てる(1)		
第9回	その(2)		
第10回	その(3)		
第11回	観光は地域にどのような影響を及ぼすか(1)		
第12回	民俗文化の観光化に対する積極的な考え方と消極的な考え方(2)		
第13回	地域が直面する課題とは一限界集落と消滅集落のこと(3)		
第14回	観光化と地域おこし(村おこしや町おこし)について考える(4)		
第15回	観光と民俗と地域おこし—まとめ		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	観光や民俗に関心を持ち、その民俗が行なわれている場所を確認する。		
履修条件・受講のルール	秋田県内の世界文化遺産登録の文化に関心を持ち調べておく。		
テキスト	講義のときにプリントを配布する。		
参考文献・資料	講義のときに紹介する。		
成績評価の方法	① 定期試験(60%) ②小テスト(20%) ③レポート(20%) ①②③の総合評価とする。		
オフィスアワー	① 火曜日(14:40~16:10) ②これ以外の場合は事前に連絡すること。		
成績評価基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けるこ		

	とができません。
学生への メッセージ	関心のある地域や民俗行事見学の旅行プランを立ててみる。